

第70回日本PTA全国研究大会山形大会参加報告

山形大会スローガン

『人とひとのつながりを体感しよう!』～あがりっしゅい精神の山形から～



令和4年8月26日(金)・27日(土)の2日間、山形県内の10会場での分科会および山形市総合スポーツセンターをメイン会場にしての全体会が開催されました。コロナ対策をしっかりとっての3年ぶりの現地での開催に、全国より約6,500名の皆さんが参加しました。

本県からは34名が、2つの分科会と全大会に参加いたしましたので、参加分科会等の概要をお知らせいたします。

(特別第1分科会の紹介)

基調講演

Vision&Education 代表取締役社長/バックカーズ寺子屋塾長

木村 貴志 氏

テーマ 「令和の日本型学校教育」を支援するPTA活動
～持続可能な社会の担い手の育成を目指して～
バックカーズ寺子屋の教育実践を通して気づいたこと

講演内容の抜粋

○持続可能な社会の担い手を育成することが、令和の日本型学教育。これをPTAはどう支援するかが今回のテーマです。

※「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【概要】([mext.go.jp](https://www.mext.go.jp))

○まずは親として、自分を磨いていく学びを進めていくことが大切です。子どもの情緒が安定する家庭を築くことが、最大の学校教育支援となります。学校教育支援として地域の学び舎づくりも視野に入れたいところです。

○バックカーズ寺子屋の事例から

Passiveな学びや生き方の姿勢を、Activeなものにいかに変革するかが、これからの教育の大きなテーマだと思います。そのためには「個の確立」(自分の考えと意志、判断力・決断力を持つこと)が大切であり、その土台として、勇気、公正、公平といったプリンシプルや教養を身につけることが大切です。「聴く・読む・書く・話す」の4つの重要性を再認識した教育実践が必要だと思います。

講演では、「消極的に聴くのではなく、積極的に聴く」といった聴く姿勢の持ち方、書くことの意義、志(目的・目標)をもつことの重要性等について、例示を用いてのお話がありました。

実践発表 岩手県滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長 白澤 仁 氏

発表テーマ 「環境が大きく変化するときが、何かを変える大きなチャンス」

発表の概要

○私たち保護者がこれから本格化する令和の日本型教育を支援していくには、組織運営も事業も、そして会員一人ひとりの考えも、学校任せではなく、その内容を理解し、意見し、認め合い、励まし合い、ともに進化して、家庭内に活かしていく必要があります。

○その地域におけるPTAの不易な面が共有されなかったり、ブレイクしていきると、これまで育んできたPTAの良さが失われることにもなりかねません。

○上記を念頭に、滝沢市のもつ地域的な特色を活用しながら、役員を務めた期間のスクラップ&ビルドの取組の説明がなされました。

パネルディスカッション

コーディネーター	山形大学大学院教育実践研究科教授	三浦 登志一 氏
パネリスト	山形市教育委員会 社会教育青少年課課長	後藤 好邦 氏
	岩手県滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長	白澤 仁 氏
	Vision&Education 代表取締役社長	木村 貴志 氏

(第8分科会〈環境・安全〉の紹介)

基調講演 大阪市立大空小学校初代校長 木村 泰子 氏

悩みを持った子どもたちが相談できる関係性をつくるために必要なこと

講演内容の抜粋

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちを取り巻く環境は、加速度的に変化しています。その急激な変化の中で、子どもたちの生命や暮らしを脅かす事件や事故を見聞きすることが多くなっています。
- 子どもたちの生命を守るためには、子どもたちの現状への理解と、何より寄り添うことが必要です。
- 子どもを守るべきは保護者だと思いますが、保護者同士のつながりが希薄化し、相談する関係性の構築も難しくなっていることで、一人で悩みを抱え、守りたくても守れない状況に陥る保護者も増えてきています。
- 子どもたちのSOSの意思表示の1つが「不登校」だと考えますが、子どもや保護者の悩みに気づき寄り添う場が、学校や地域だと考えます。子どもたちは、「見守る」私たちに信頼できる存在であるかどうか見ているのではないのでしょうか。
- 子どもたちから信頼され、相談される環境を考え、一人で悩むことでさまざまな危険にさらされている子どもたちに対して、「安心できる居場所」をつくるためには、保護者・地域・学校それぞれの何が必要なのかを考えることが大切です。

実践発表 特定非営利活動法人 寺子屋万丈舎理事長 江川 和弥 氏

発表テーマ 子どもたちの安全を確保するために必要な「居場所」とは

発表の概要

- 悩みを持ちながら、だれにも相談できずに不登校になってしまう子どもたちは年々増加しています。子どもたちを支える保護者もまた、同じようにだれにも相談できず悩んでいます。
- 万丈舎では、子どもたちが話したいことを聞き、「何をしたいか」を一緒に考え、自分自身が気付いたことから自主的に学んでいきます。子ども一人一人に焦点を置き、人と「つながる」ことを通じて生まれる学びである「子ども主体の学び」を実践しています。
- 万丈舎の実践から、地域一体で子どもたちを見守り、育み、成長し合うことの大切さについてのお話がありました。

パネルディスカッション

コーディネーター	山形大学地域教育文化学部教授	安藤 耕己 氏
パネリスト	山形市市議会議員	松井 愛 氏
	宮城県PTA連合会副会長	浅野 直美 氏
	大阪市立大空小学校初代校長	木村 泰子 氏
	特定非営利活動法人 寺子屋万丈舎理事長	江川 和弥 氏

(全体会の紹介)

歓迎アトラクション

朝倉さや(歌唱)・山伏/出羽三山神社(法螺貝)・良絃弦会(伴奏)

又新連/村山産業高校(徳内ばやし, 伴奏)・四面楚歌/山形大学(花笠踊)



全体会 開会式



全体会 日本PTA全国協議会会長あいさつ

記念講演・記念演奏会 山形交響楽団桂冠指揮者 飯森 範親 氏

講演テーマ 「一本のタクト」は、人のこころを豊かに幸せにするアイテム

ライブでしか味わえないお話と演奏をあなたに

幼い頃の家族とのかかわりや人との繋がりが山形での活動へと繋がっていくことなど、これまでの半生を振り返ってのお話がありました。後半は、山形交響楽団のすばらしい演奏で会場が感動につつまれました。

※[第70回 日本PTA全国研究大会山形大会の開催について | 日本PTA全国協議会 \(nippon-pta.or.jp\)](http://nippon-pta.or.jp)